

# 石塚院長のおせっかい

Vol. 19

## 種（しゅ）としての限界

ロシアのウクライナ侵攻を始めとして、中国の力による国際秩序の一方的変更、ミャンマーにおける弾圧的軍人政治、北朝鮮の核再開発の強行などなど平和をあざ笑うような自国中心の政治や軍事が世界を席卷しています。

第1次・第2次世界大戦の経験から、人類は種々の事を学び平和共存のための国際的な組織を少しずつ作り上げて来たはずです。われわれ日本人も戦前の帝国主義的思考・教育から脱却し平和を最優先する考え方に転換して来ています。

現在の暗黒的世界情勢は、以前には経済的にも軍事的にも劣る発展途上国家であった諸国が徐々に実力をつけてきて、これまでの世界的秩序の転覆を意図したことに起因するのではないかと思います。

マハトマ・ガンジーやキング牧師をはじめとする平和主義者の献身的努力や現代人類の国際平和への希求心は何処へ行ってしまったのでしょうか？

……次項に続く

# 石塚院長のおせっかい

Vol. 19

## 種（しゅ）としての限界-2

このままでは世界は、いや人類は滅亡への一途を辿る一方でしょう。そうなる事を望んでいる人類は一人もいないはずですが、結果的にそうなることが十二分に分かっているのにこれらの行為が無くならないのは何故なのでしょう？

「わかっちゃいるけどやめられない」という言葉がありますが人類は自らの首を絞める愚行を何故繰り返すのでしょうか？

このことを嘆く時、私は高校時代に読みふけた小松左京氏（「日本沈没」の作者として高名なSF小説作家）が提唱されていた言葉を実感を持って思い出します。

「それが人類の種としての限界なのだ！」という一節です。

60年も前に読んだ小説に登場する或る遺伝子研究者のこの言葉が、今になってははっきりと理解できたような気がします。

若き日の私の憧れの作家であった小松氏の偉大さに改めて感服しています。今こそ人類は救世主を求めています。

種としての限界を超えられるホモサピエンスの登場を待ち望む事しか出来ないのが何とも口惜しい限りです。

怪僧ラスプーチンの血を継ぐウラジミール・プーチン大統領閣下、あなたにこそその資格とチャンスがある事にお気づき頂きたいのですが……。